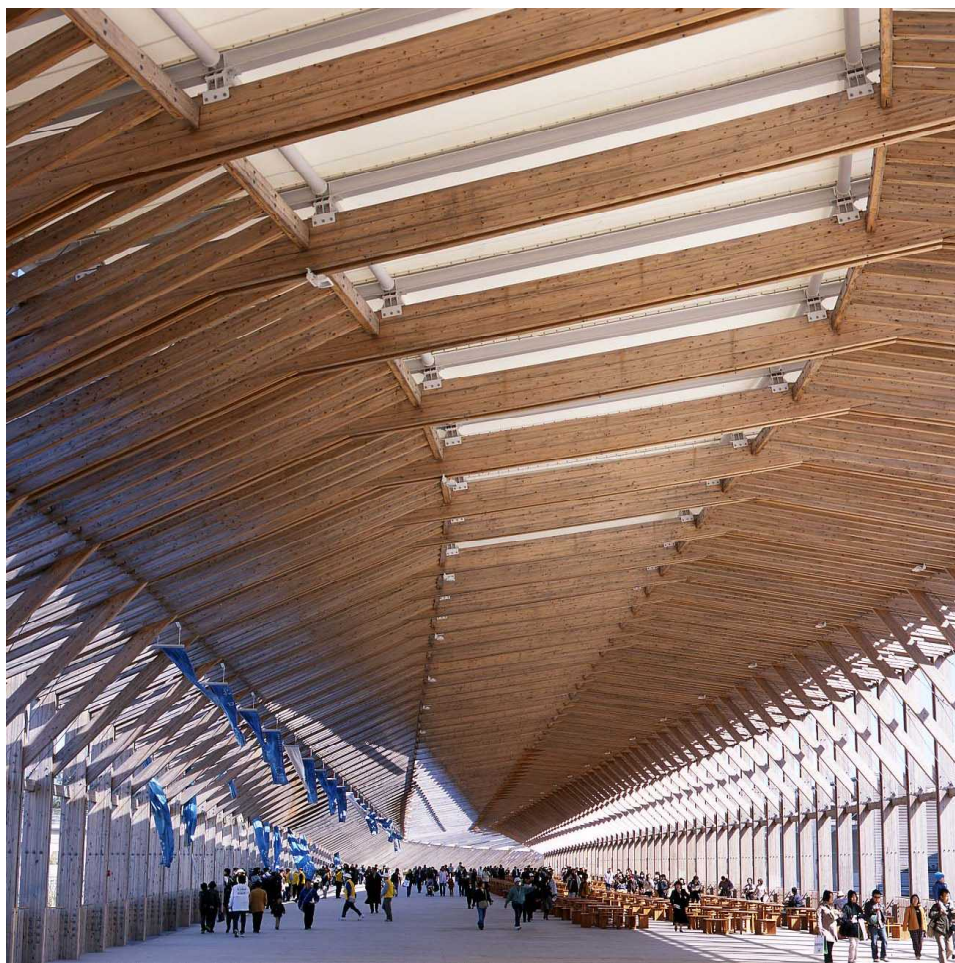


環境報告書 2011



1. ごあいさつ	2
2. 会社概要	3
3. 編集方針	3
4. 環境基本方針	4
5. 環境中期計画	5
【達成目標年度：2012年度】	5
6. 環境保全活動の経過	6
【環境保全活動の歩み】	7
7. 環境・安全管理体制	9
8. 環境負荷の全体像	10
【事業活動における環境負荷】*2010年度実績	10
9. 環境負荷低減への取組	11
【P R T R 対象物質への取り組み】	11
【大気汚染防止への取組】	11
【水質汚濁防止への取組】	12
【二酸化炭素排出量削減への取組】	13
【産業廃棄物削減への取組】	14
10. 環境保全のための製品	15
【透明膜材で遮熱性に優れる「サンドリーム®クール」の紹介】	15

■1. ごあいさつ

平素は格別のお引立てを賜り厚くお礼申し上げます。

先ずは3月11日に発生した東日本大震災で被災された地域の皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

ご存知の通りこの度の震災における影響は、人災とも言わざるを得ない原発の放射能漏れという甚大な被害を及ぼし、この事態がいつ頃までに収束するのか、いつ頃になれば普段の生活環境に戻れるのかも全く予測がつかない状況になっております。さらに原発の安全神話が崩れ、各地の原発を安全見極めの為に止めざるを得ないことから、北海道、四国を除く地域において国民を巻きこんだ夏場電力の使用削減の御願いをするに至っており、企業に対しては節電要請や使用制限令が出される状況になっております。まさにエネルギー依存型産業に対し一石を投じた出来事として、各企業が真摯に事実を受け止め対策を講じていくことが重要であることは言うまでもありません。

弊社の環境対策を理解していただく為に【環境への取組】を初めて掲載してから3年目となりますが、環境保全に対する活動は2000年以前より実施しております。環境負荷物質の削減や温暖化対策、省資源、省エネルギー等への環境に対する取組は地球環境を守る為には今後とも益々重要であり、企業としては取組まなくてはならない課題であります。環境対策への取組が出来ない企業は存在・存続価値が無いと言っても言い過ぎではない時代になっており、まさに環境対策＝社会的責任＝企業価値に繋がると思います。

最後になりましたが、弊社が上市しております環境対応製品もご紹介しておりますので、是非皆様のビジネスにお役立て下さいますようお願い致します。

今後とも、より一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2011年9月

代表取締役社長 平岡 義次

■2. 会社概要

名 称	平岡織染株式会社
社 長	平岡義次
資本金	払込資本 48,438千円
	自己資本 4,473,000千円
創 業	明治35年8月(1902年)
会社設立	昭和10年2月
本 社	東京
支 店	大阪
事業所	草加(埼玉県)、滋賀(夕)工場(滋賀県)

■3. 編集方針

【報告書の対象期間】

対象期間 2010年4月1日～2011年3月31日

【報告書の対象範囲】

本社、支店、2事業所(草加、滋賀(夕)工場)

* ターポリンは以下(夕)に省略して記載する。

■4. 環境基本方針

平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで、機能的で使いやすい製品を製造、提供しております。機能性や特性を重視する建築、土木、車輛といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいております。

私たちは、企業が成長し続けるためには、環境の保全を目的として、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しております。

事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する法規制及び、地方自治体との協定を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。特に、工場排気、排水、土壌に留意し、質の維持管理・向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 全社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社を含む全従業員に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。

■5. 環境中期計画

弊社では、2001年度に生産部門に環境方針を定め、環境マニュアルを発行したのを起点に、環境保全型の企業活動を本格的にスタートさせました。2002年度には、草加事業所が埼玉県「彩の国エコアップ宣言」対象の事業所になったのを契機に、第一次の中期計画を策定。二酸化炭素総排出量削減と産業廃棄物原単位排出量削減の二つのテーマについて、2001年度の実績データを基準として、達成目標年度を2006年度と定め、具体的な目標を掲げ改善に取り組み、目標を達成しました。

更に環境に配慮した企業経営を充実させるため、2007年6月に第二次の中期計画を策定。2006年度の実績データを基準として、次の三つの具体的な改善目標を掲げました。達成目標年度は、2012年度です。

【達成目標年度:2012年度】

二酸化炭素総排出量	:	3%削減
産業廃棄物原単位排出量	:	5%削減
コピー用紙使用量	:	10%削減

* 2006年度比

■6. 環境保全活動の経過

弊社では、古くから綿をはじめとした天然繊維への染色加工や、合成繊維への樹脂加工を手掛けてきましたので、大気汚染防止法や水質汚濁防止法といった公害規制にも企業活動の一環として、前向きに対応して参りました。

2001年度には、生産本部環境方針を定め、環境マニュアルを発行。2002年度には、滋賀ターポリン*工場が「大気環境負荷低減計画実施事業場」として、滋賀県から公表。同年度に、草加事業所も「彩の国エコアップ宣言」(環境負荷低減計画作成)対象事業所として、埼玉県から公表されたことにもない、環境負荷の低減目標と、具体的な取組内容を公に示しました。

これにより、企業の社会的責任(CSR)の考え方に立った企業活動への第一歩を踏み出すこととなりました。

【環境保全活動の歩み】

1999.08	草加事業所に「エネルギー削減委員会」設置（～2003.04まで、2003.05からは、「CO ₂ 削減委員会」に改称し、2007.03まで活動を継続）
2000.05	草加事業所に「産業廃棄物削減委員会」設置（～2006.03まで活動）
2001.01	草加事業所に「P R T R・V O C対策検討報告会」設置（～2007.11まで、2007.12からは、「環境対策会議」に改称し、環境全般に関わる改善活動を継続中）
2001.04	生産本部環境方針を制定、環境マニュアルを発行
2002.04	滋賀（タ）工場に「省エネ委員会」設置（～2008.03まで活動）
2002.12	滋賀（タ）工場が滋賀県の「大気環境負荷低減計画実施事業場」証明書受理
2003.03	草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
2004.10	草加事業所にガスコージェネレーション（550kW）を導入設置、稼働開始
2006.08	草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置（150m ³ /分）を導入設置、稼働開始 ※VOC大気放出量の大幅削減に貢献
2008.11	滋賀（タ）工場の重油焚きボイラ3基を高効率のガス焚きボイラに更新し、同工場の重油使用を全廃
2009.03	滋賀（タ）工場にCO ₂ 排出量の削減のため、新熱処理機を設置
2009.04	全社一丸となった環境への取組を強化するため、「環境連絡会議」を設置
2009.10	内部環境監査（環境マネジメントシステム）の運用開始
2010.12	草加事業所の重油焚きボイラ2基を高効率のガス焚きボイラに更新し、全社の重油使用を全廃
2011.03	滋賀（タ）工場、新熱処理機の本格稼働開始



ガスージェネレーション

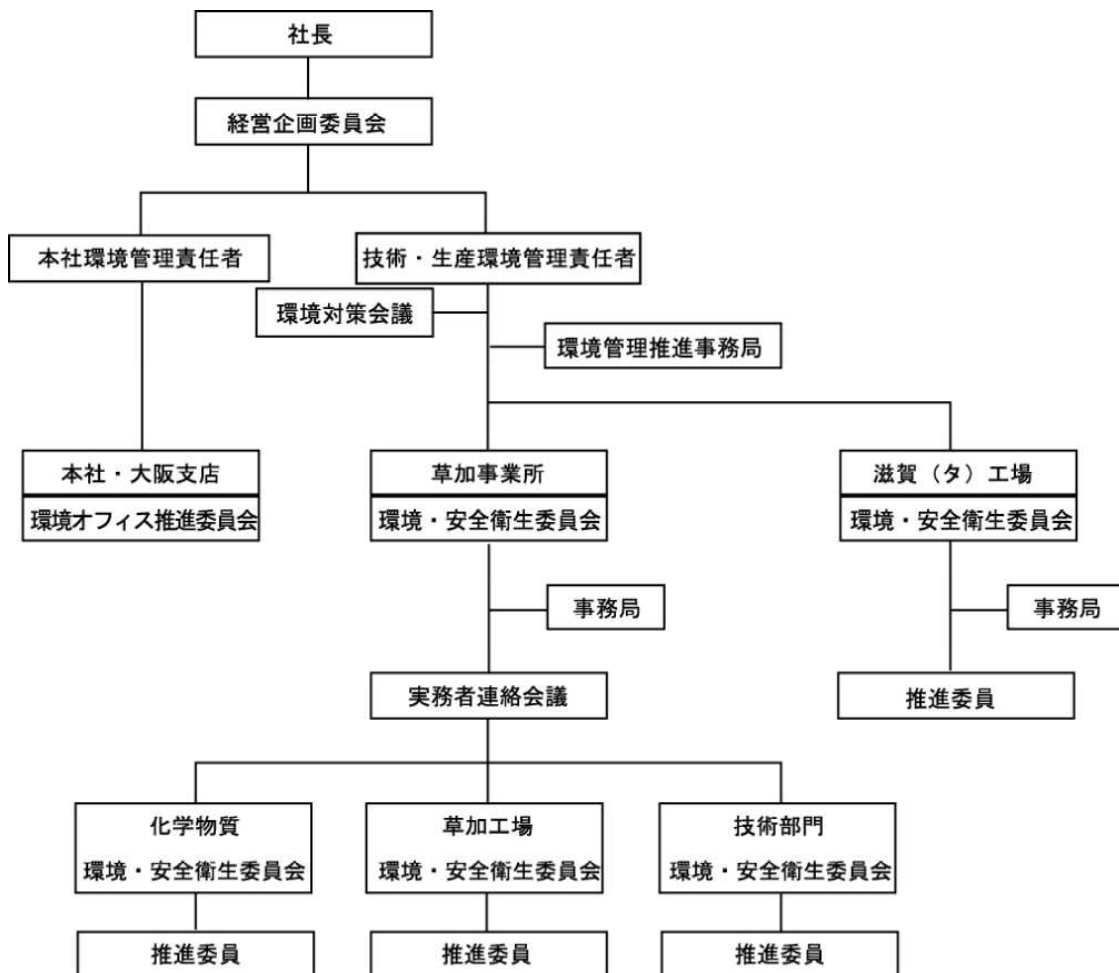


蓄熱式排ガス浄化装置



高効率ガス焚きボイラ

■7. 環境・安全管理体制



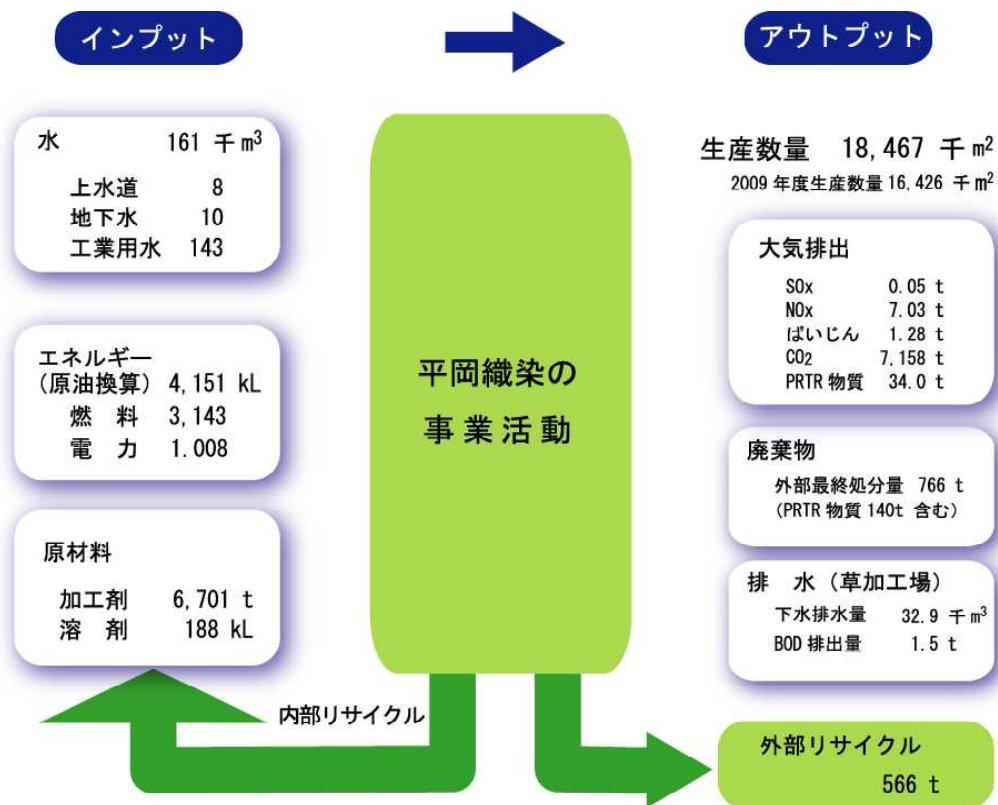
HIRAOKA, co., LTD

■8. 環境負荷の全体像

【事業活動における環境負荷】* 2010年度実績

弊社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

2010年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



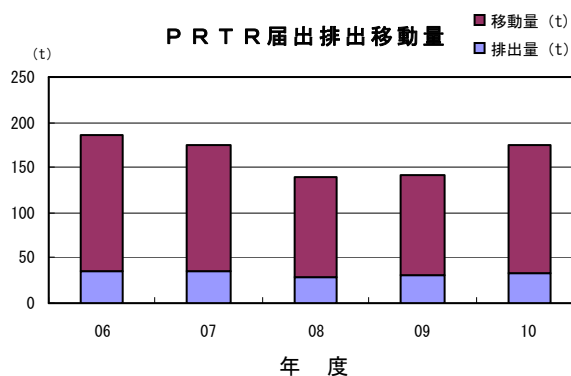
生産量は前年比で 1 割程度増加したため、それに比例しインプット量・アウトプット量とも増えています。今後は生産量が増加してもこの環境負荷水準を維持、或いは低減出来るよう、さらなる努力を続けて参ります。

■9. 環境負荷低減への取組

【PRTR対象物質への取組み】

労働安全衛生法及び PRTR 法に関する法令等で対象となった化学物質の使用量を管理し、削減を進めています。PRTR 法施行後、2008年度までに6物質を全廃しました。また、PRTR 法が改正され、2010年度届出が改正後の初年度となります。

* PRTR対象6物質・・・亜鉛の水溶性化合物、ビスフェノールA、六価クロム化合物、クロロタロニル、鉛化合物、ポリ（オキシエチレン）＝ノニルフェニルエーテル



2010年度は改正 PRTR 法、2010年度以前は旧 PRTR 法に基づく結果です。

2010年度は改正 PRTR 法による届出対象物質の変更とその使用量の増加で、移動量が前年比約25%増となりました。

【大気汚染防止への取組】

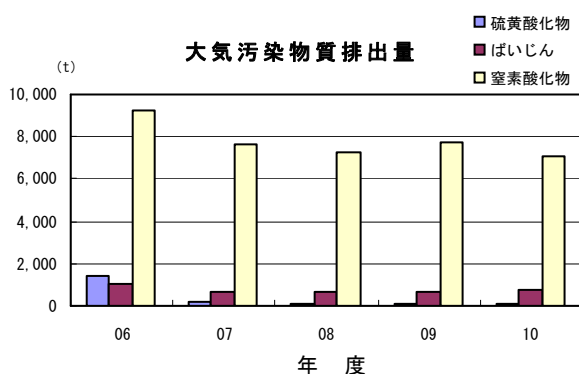
2010年度のSO_x（硫黄酸化物）の排出量は、ボイラ燃料をA重油から環境の負荷が小さい天然ガスへの転換を進めた結果、2006年度を基準として96%減の0.05tとなっています。特に滋賀（タ）工場は2009年度からボイラ燃料の完全ガス化により、SO_x排出量がゼロになりました。

NO_x（窒素酸化物）の排出量は、燃料転換による削減効果が得られないため、ほぼ横ばいで推移しています。

2010年度のばいじん排出量は、2006年度を基準として29%減の0.74tでした。これも、燃料転換による効果です。

今後は可能な限り、燃料使用量に節減（省エネ）によるNO_x排出量の削減を進めて参り

ます。



【水質汚濁防止への取組】

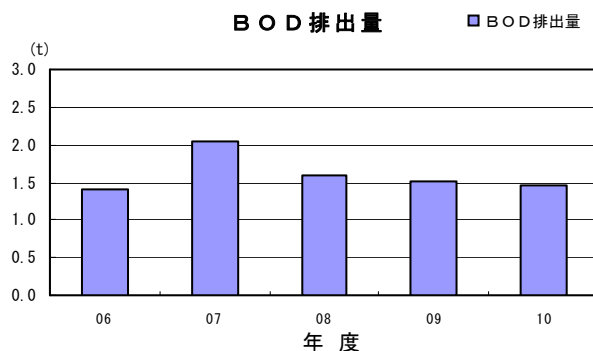
工場排水を行っているのは、染色を行っている草加工場のみです。工場排水を行っていない滋賀(夕)工場は水質汚濁防止法には該当しません。従って、対象となる草加工場のみ水質汚濁防止への取り組みを行っております。

排水が発生するのは主に染色工程で、長年にわたり、加圧凝集浮上方式による施設で処理し、公共下水道へ流しています。近年では染色工程を含む製品の減少で年間排水量も20千 m^3 前後と低位安定していましたが、2010年度は染色加工の増加に伴い、33千 m^3 と増えました。

然し、2010年度のBOD排出量は、前年度とほぼ横ばいの1.47tでした。

水質汚濁防止については、草加市下水道条例で定める下水排除基準に常に適合するよう、同基準より更に厳しい社内基準を設け、細心の注意を払いながら水質管理に努めています。

引き続き、排水量の削減が計られるよう発生源の管理強化と、水質社内基準の遵守に努めて参ります。

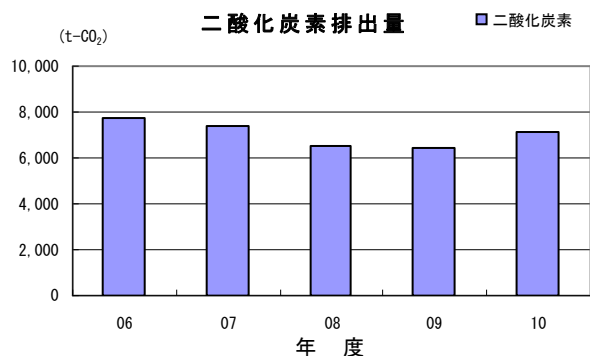


【二酸化炭素排出量削減への取組】

2002年度に草加事業所が埼玉県「彩の国エコアップ宣言」対象の事業所になったのを契機に、CO₂排出量・エネルギー使用量・エネルギー原単位のデータを正確に把握し、CO₂削減と省エネ推進に精力的に取り組み、自主目標を達成してきました。具体的には、ガスコージェネレーションの導入とボイラ燃料転換、乾燥炉の排熱ロスの削減などに積極的に取り組んだことが成果に結びついたと考えています。

2010年度のCO₂排出量は、生産量と比例し、前年度比12%増の7158t-CO₂でした。逆に原単位(生産量当たり)では、前年度比0.7%の微減。然し、環境中期計画で目標とした、「2012年度までに2006年度比3%削減」に対しては、2007年度以降達成しておりましたが、2010年度は生産量増に伴い、2006年度比で3.2%削減に留まっています。

現在は原単位排出量の削減に基軸を移しており、更なる生産効率向上と省エネ活動の推進に取り組んで参ります。



【産業廃棄物削減への取組】

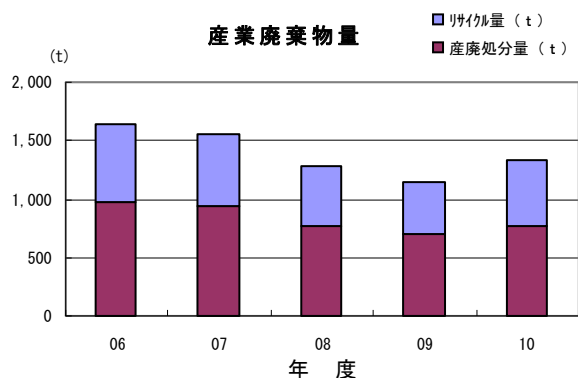
埼玉県「彩の国エコアップ宣言」対象の事業所になったのを契機に、産廃処分量・原単位処分量・リサイクル量のデータを正確に把握し、原単位処分量削減とリサイクル率の向上に精力的に取り組んできました。

2010年度の産廃処分量は、前年比12%増の766 tでした。

一方、原単位処分量は、前年比0.7%減の42.0 kg/千m²となり、環境中期計画で基準年とした2006年度比で6.7%減少し、目標の5%削減を維持しました。

尚、外部委託のリサイクル率については、ここ数年40%で安定しています。

さらに原単位処分量の削減のため、原材料と製品の社内外のリサイクル率向上に取り組んで参ります。



■10. 環境保全のための製品

透明シートで遮熱性に優れた「サンドリーム®クール」の紹介

特徴

- ★一般透明シートに比べ遮熱性に優れています
- ★高い透光性を有します(透光率 50%以上)
- ★紫外線 A 波、B 波をカットします
- ★耐候性が高く、長期間使用可能です
- ★ PVDF 処理なので防汚性に優れます

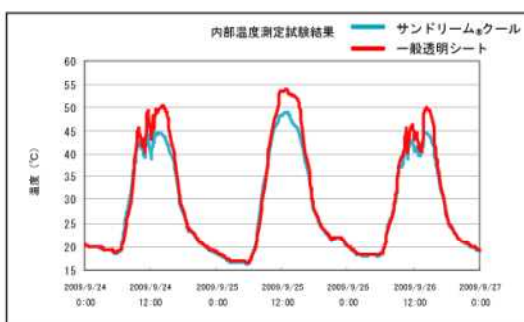


① 遮熱効果が高い

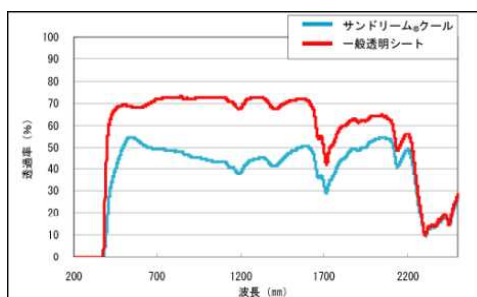
一般透明シートに比べ日中で 5℃の温度差を確認！… BOX 内部温度比較試験



1m³の格子の5面にシート張り、下部から40cm地点に温度計を設置して内部温度変化を測定した。

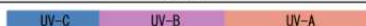
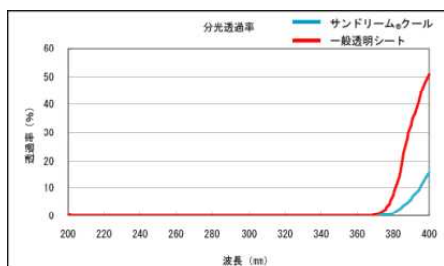


熱を室内に効率よく伝える赤外線を効率的にカット！…波長別透過率



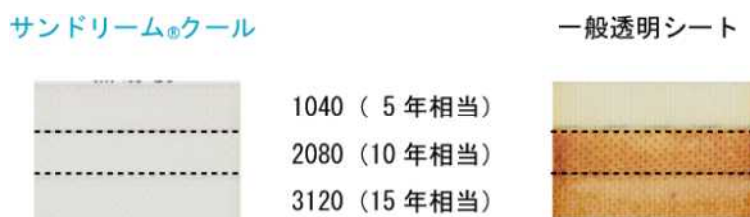
	赤外線透過率 (%)
サンドリーム®クール	44.0
一般透明シート	70.4

② 紫外線をカット…人体に悪影響を及ぼすUV-Aを95%カット！



	サンドリーム®クール	一般透明シート
UV-A	95.4	82.4
UV-B	99.9	99.9
UV-C	99.9	99.9

③ 抜群の耐候性…キセノン耐候促進試験3120時間(暴露 15 年相当)で変退色なし！



④ 透光率…遮光性を有しながら50%以上の透光率を確保！

⑤ 省エネ効果…一般透明シートに比べ消費電力を33.3%削減、コスト節約額 26,000 円！

	サンドリーム® クール	一般透明シート
消費電力(kW・h/夏場 4 ヶ月)	4,019	6,028
消費コスト(円/夏場 4 ヶ月)	78,360	52,248

⑥ 環境への取り込み…一般透明シートに比べ二酸化炭素を33.3%削減！

	サンドリーム® クール	一般透明シート
二酸化炭素排出量(t/夏場 4 ヶ月)	1708.1	2561.8

【シミュレーション条件】

- 屋根・・・各膜材を使用、面積500m²
- 側面・・・各膜材を使用、面積100m²
- 床・・・普通コンクリート、厚さ150mm、面積500m²
- 地域・気象条件・・・東京の気象データを基に計算
- 比較条件・・・建物の屋根及び側面に膜材料(通常品・遮熱品)を使用したことを想定
- エアコン設定温度・・・35℃
- エアコン使用期間・・・6月～9月(夏場4ヶ月間)
- エアコン使用時間・・・10時～14時(4時間/1日)
- ・消費電力の単価は1kW/h 当たり 13 円として電気量料金のみ(基本料金は除く)を計算。
- ・消費電力はエネルギー消費効率(COP)を3として計算。
- ・CO₂ 排出量は0.425kg/kWh として算出。

※本シミュレーションは、標準気象データと、熱負荷計算プログラム LESCOM を使用して計算を実施。